

ワクチンの接種体制等について

1 国、県、市町の主な役割

国	①接種順位の決定、②ワクチンの確保、 ③副反応疑い報告制度の運営、④健康被害救済の認定 等
県	①医療従事者等への優先接種に係る調整 ・超低温冷凍庫（ディープフリーザー）の配置及びワクチン配分 ・優先接種対象者のリスト化 等 ②副反応等の専門相談の実施、③住民接種に係る市町へのワクチン配分、等
市町	①医療機関との委託契約、②集団的な接種会場の確保、③クーポン券の個別配布、 ④住民への接種勧奨、⑤健康被害救済の受付 等

2 ワクチンの種類

	ファイザー社	アストラゼネカ社	武田／モデルナ社
規模	1.4億回分 (7千2百万人×2回接種)	1.2億回分 (6千万人×2回接種)	5千万回分 (2千5百万人×2回接種)
接種回数	2回(21日間隔)	2回(28日間隔)	2回(28日間隔)
保管温度	-75℃±15℃	2～8℃	-20℃±5℃
1バイアルの単位	6回分/バイアル	10回分/バイアル	10回分/バイアル
最小流通単位 (一度に接種会場に配送される最小の数量)	195バイアル (1170回接種分)	10バイアル(100回接種分) ※供給当初300万バイアル分 2バイアル(20回接種分) ※残り900万バイアル分	10バイアル (100回接種分)
バイアル開封後の保存条件 (温度、保存可能な期間)	(室温で融解後、接種前に生理食塩液で希釈) 希釈後、室温で6時間	(一度針をさしたもので以降) 室温で6時間 2～8℃で48時間 希釈不要	(一度針をさしたもので以降) 2～25℃で6時間(解凍後の再凍結は不可) 希釈不要
備考	・医療機関では、ドライアイス又は超低温冷凍庫で保管 ※医療機関でのドライアイス保管は10日程度が限度 →10日で1170回の接種が必要 ※最大5日間追加での冷蔵保管可(2～8℃)		・医療機関では、冷凍庫で保管(-20℃±5℃)

3 医療従事者等への優先接種について

(1) 対象者

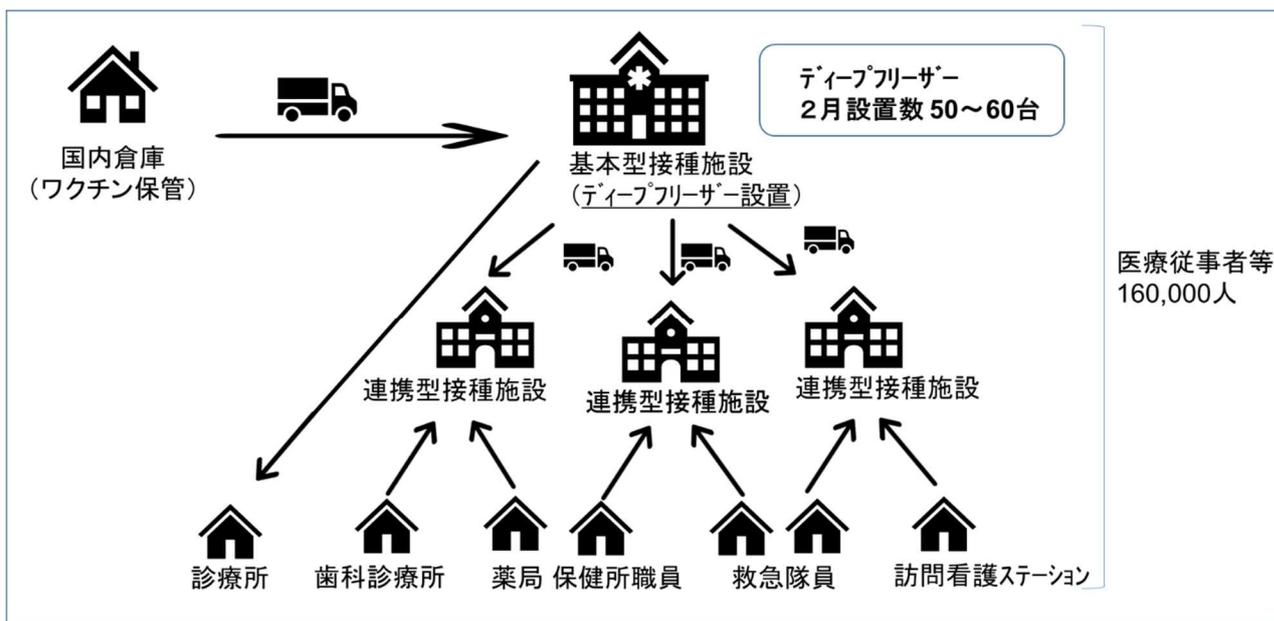
病院等において新型コロナウイルス患者と接する医師等の職員、搬送に従事する救急隊員、自治体の対策業務に従事する職員 等

(2) スケジュール

医療従事者への接種はワクチンの供給が不透明であるが、3月中旬以降の接種が予定されている。(2月中旬から先行接種が開始予定。)

(3) 優先接種の体制

①接種の流れ



②接種施設

	基本型接種施設	連携型接種施設
役割	ディープフリーザーを設置し、圏域の中核施設として、ワクチン接種や連携型接種施設へのワクチン供給及び管理を行う	基本型接種施設からワクチンを受け取り、ワクチン接種を行う。
規模	概ね 1,000 人以上の接種が可能な施設	概ね 100 人以上の接種が可能な施設
施設数	50~60カ所	260カ所 (参加意向医療機関数)

③接種可能人数

	基本型	連携型	合計	国想定対象数
接種可能数	78,000人	98,000人	176,000人	160,000人

※医療従事者等の範囲拡充等により接種希望者数の増加が予想されるため、連携型接種施設の更なる拡大を進める。